

# フェロシルト 石原産業

# 製造中止を示唆

## 市民団体 完全撤去、明言せず 県と懇談

大手化学メーカー「石原産業四日市工場」（四日市市）が製造していた放射性物質を含む埋め戻し土製品「フェロシルト」が、愛知や岐阜県内で環境に悪影響を与えているとして、東海3県を中心として、八つの市民団体が16日、県四日市庁舎で県や石原産業と懇談した。石原産業は製造中止の可能性を示唆した。

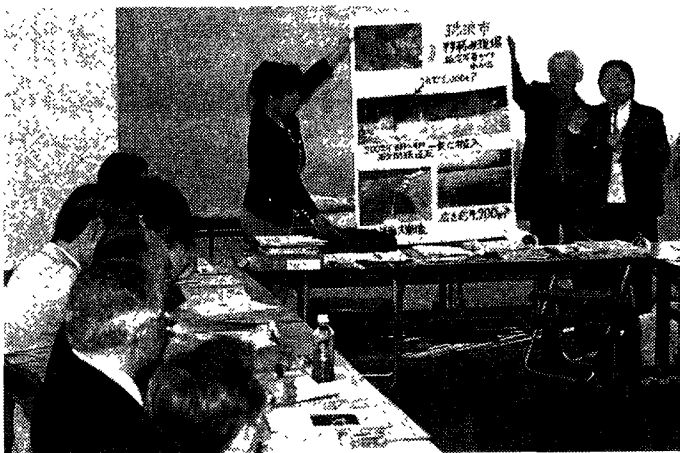
「ダイオキシシン・処分場問題愛知ネットワーグ」（吉川三津子代表）の代表者らが出席。石原産業からは安藤正義常務取締役四日市工場長ら5人、県からは環境森林部こみゼロ推進室の岡本道相室長ら4人が出席した。

市、岐阜県瑞浪、土岐、可児市内に持ち込まれているフェロシルトの完全撤去を要求した。また、県に対し、フェロシルトをリサイクル推奨品の認定から外すよう求めた。

これに対し、石原産業は「昨年12月から製造を自粛している。ご迷惑をかけた」などと説明し、製造中止の可能性を示唆した。しかし、完全撤去については明言を避けた。一方、県はリサイクル推奨品の認定を再検討すると答えた。

懇談会では一時、市民団体のメンバーが「企業としてのモラルはないのか」「何であなたたちの金もうけのために私たちが余分な放射能を浴びなければいけないのか」などと怒りの声を上げた。

市民団体は次回の懇談会までに、石原産業に対して産業廃棄物のフロッチヤーと流通業者間の金の動きを明らかにすることを要求。県に対してはリサイクル推奨品への認定を決めた認定検討委



手作りの資料を見せながら意見を述べる市民団体のメンバー

員会の中身について詳しく説明することを求めた。

石原産業は酸化チタンの製造過程で出る廃硫酸を用いてフェロシルトを製造してきた。今回の懇談会の日程は未定だ。

【飯田和樹】

### 実態調査を市に申し入れ

共産党亀山市議団

フェロシルトをめぐる問題で、共産党亀山市議団は16日、市内でもフェロシルトが使われていたとして、市に実態調査と安全対策を講じるよう求める申し入れをした。

市民団体は次回の懇談会までに、石原産業に対して産業廃棄物のフロッチヤーと流通業者間の金の動きを明らかにすることを要求。県に対してはリサイクル推奨品への認定を決めた認定検討委